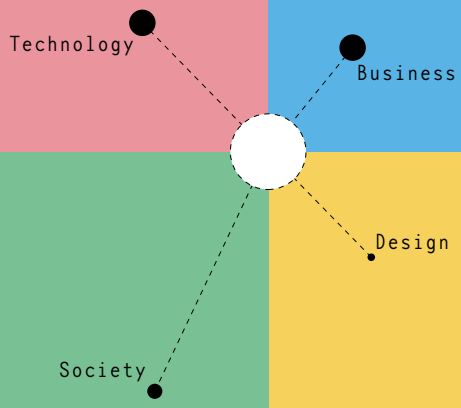
後藤滋樹

ごとう・しげき：早稲田大学 理工学部 情報学科教授。MINC理事、APAN副議長などアジア太平洋のインターネット界で活躍している。
goto@goto.info.waseda.ac.jp



インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

2005年の夢と悪夢

目標は2005年

1990年にNTTはVI&P構想を発表した。VI&Pはビジュアル、インテリジェント、そしてパーソナルの頭文字で、2015年までにオフィスや家庭を光ファイバーで接続するという計画であった。その当時、私はNTTの研究所に勤務していた。研究所の食堂のテラスの横の大きな壁に、VI&Pの絵が描かれたことを覚えている。

その2015年という目標が、その後2010年に、さらに2005年と前倒しされていく。NTTのVI&P計画は、米国のゴア副大統領の全米情報スーパーハイウェイ構想に大きな影響を与えたと言われている。つまり世界的にインパクトのある構想であった。

これに限らず2005年を目標とする計画が多数ある。少し前には「2005年には全国の学校のすべての教室からインターネットにアクセスできる」という計画が発表された。最近では政府のIT戦略本部が「2005年度には日本を世界一のIT先進国にする」という目標を掲げている。

通信会社の経営

いろいろな計画が目標としている2005年は、素晴らしい年になりそうな雰囲気がある。その一方で厳しい現実が目の前にある。

世界的に通信会社は受難のときを迎えている。米国では光ファイバーへの過剰な投資が通信会社の経営を圧迫している。つまり光ファイバーが余っている。その通信会社に投資をした機器製造会社も苦しんでいる。携帯電話の世界では、欧州の電波の入札制度が通信事業者の経営を圧迫している。

その一方で、高いと言われた通信料金が安くなった。ADSLで言えば日本が世界で一番安いと言われている。ADSLは光ファイバーではないが、光ファイバーの一歩手前である。ADSLの料金が安ければ、光ファイバーの料金も安くせざるを得ない。電話料金も競争のあるところでは、国内、国際ともに安くなってきた。

こうなると、通信会社が投資を回収するだけの充分な収入を確保するのが難しくなってきた。2005年に夢の超高速通信が実現しても、光ファイバーの利用料金はゼロにはならない。うまくいけば、安い料金で多くの人が利用して通信会社が薄利多売となるが、マズイ場合には利用者が少なくて利用料金は高いままに据え置きとなる。

パソコンの完成

光ファイバー時代の超高速通信は、音声の電話では使い切れない。インターネットに代表されるコンピュータネットワークが主役になる。そのためにはコンピュータが必要だ。現在のパソコンは、まだ使いにくいし、オペレーティングシステムが少々不安定なところがある。

それでも、昔のコンピュータに比べれば大幅に改善されている。パソコンは文字通りにパーソナル、つまり個人で使うものであって、老若男女を問わず誰でも使えるようになってきた。オペレーティングシステムの安定性も昔に比べるとずいぶんとよくなった。

さらに、パソコンという形態は必要ないという予言もある。現在でも電子メールとウェブの閲覧に限れば、パソコンを使わなくても済む。私もウィンドウズCEの機器（Mobile GEAR）を愛用している。ただし、Power Point（PPT）で画面で発表するようなときにはPocket Power Pointでは非力である。あと一歩の進展が望まれる。

私は大学では情報学科に属している。いわゆるコンピュータ屋である。パソコンの普及が2005年に一段落するならば、我々の仕事の様相が変わるのではないかと予想している。現在はコンピュータのハードウェアもソフトウェアも発展途上にある。それが落ち着いてくるということは、コンピュータの進歩が鈍化することだ。

パラダイムシフト

21世紀になったのに、変化したような実感が湧いてこない。どうやら21世紀らしい世の中を見るのは2005年ごろになりそうだ。この時間的な遅れは、夏至と真夏の関係に似ている。夏の一番暑い日は、日照時間が長い夏至ではなく、少し遅れてやってくる。

新しい時代には、新しいものが活躍する。その陰で古いものが退場する。21世紀のネットワークの世界ではインターネットがとりあえず中心となる。電話機はなくならないとしても、それを実現するのがIP電話（インターネット電話）であるとすると、交換機が不要になる。

これまでの電気通信は、電話を中心に考えていた。その電話の技術の核心は交換機にある。それが要らなくなるというのだから大きな変革である。通信の世界では21世紀になって世の中が変わることになる。同じような枠組（パラダイム）のシフトが他の分野でも起こるだろう。

©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.